

「備後国府」遺産発掘プロジェクト ～府中の宝を未来へつなごう！広がる輪！～

日 時 令和4年 10月 26日（水） 第5校時

場 所 6年1組教室

学 級 第6学年1組（34名）

1 単元のデザイン

本単元の目標

備後国府跡の発掘調査に関わったり、備後国府の歴史や文化の伝承に向けた取組を行ったりすることを通して、自分が住む地域で生まれ受け継がれてきた歴史や文化を理解し、その伝承に取り組む人々の思いや願いに気づき、その伝承を願って地域の一員としてできることを考えとともに、自らの生活や行動に生かすことができるようにする。

単元観

市名となっている「府中」は、「備後国」の「国府」が設定されたことに由来している。今から1300年前、全国は約60の「国」という行政単位に分けられ、国ごとに「国府」が置かれた。市の発掘調査によって、国府に関する遺構や遺物が確認され、校区内に国府の重要施設が所在していたことが明らかになり、平成26年に、備後国府跡として「金龍寺東地区」と「ツジ地区」が国の史跡に指定されている。「府中市グランドデザイン」によると、史跡備後国府跡整備基本計画の策定と、史跡及びその周辺の具体的な保存や活用について計画が進んでいる。「史跡の保存・活用をはじめ、府中の古代・中世の歴史や文化についての記憶を継承し、市民に日常的に親しんでもらう」という戦略目標が立てられ、指定地を市民や子供たちの学習や憩いの場やイベント会場、遊び場とするなどの整備・活用が考えられている。しかし、現状として備後国府と聞いて具体像を語るができる人や発掘調査が行われていることを知る人は少ない。

そこで、本単元は、備後国府に関わる活動を通して、地域に対する関心を高め、先人たちの営みの積み重ねの上に今の自分たちの生活が成り立っていることを知り、地域への愛着や誇りをもち大切に思う心や人と人とのつながりの大切さ、伝統や文化を守り、伝承していくこととする態度を育み、自己の生き方を見つめることができるようにすることをねらいとする。本単元の学習を通して、児童は歴史や文化のすばらしさやおもしろさを知り、広めていくこととする。よりよい郷土の創造に関わって生じる地域ならではの課題に出会うことにより、「自分の力で解決することができた」、「自分が学習したことが地域の役に立った」などの、課題の解決に取り組んだことへの自信や自尊感情が育まれ、社会への参画意識も醸成されると考える。

児童生徒観

事前の意識調査の結果は以下の通りである。

内容		肯定的評価
①	総合的な学習の時間は、前向きに取り組もうと思います。	100%
②	自分で課題を設定しています。	84%
③	課題を解決するために、進んで、資料を集めたり取材をしたりしています。	87%
④	情報を比べたり、仲間分けしたり、関係を見付けたりして、何が分かるのか考えています。（必要に応じた思考ツールの活用）	70%
⑤	自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝えるように発表を工夫しています。	90%
⑥	学習の振り返りをするときには、「どこまで分かったか」、「学習の方法でうまくいったことや失敗したことなどの理由」を考えています。	81%

以上の結果から、本学級の児童は、④集めた情報の整理・分析をする際に、思考ツールを活用することの有効性を感じ、様々な課題解決において適切かつ効果的に活用することに課題がある。どのような対象なり場面の、どのような課題解決に、どのような理由で、どのような思考ツールが有効なのかを考え、実際に試し、うまくいったりうまくいかなかったりする経験が少ないことが原因であると考え。また、どの児童も、これまでの学習に主体的に取り組んできたが、書籍やインターネットから情報を収集する姿が多いことから、対象と関わる時間を十分設定した単元構成にし、情報収集方法を再度示す必要がある。そして、よりよくしようと改善する力は不十分といえるため、困難に直面したときにどのように解決するか考えたり、失敗を乗り越える経験をさせたりすることで、達成感や自信をもたせ、ねらいとする力の育成を図る。

指導観

○課題の設定では、問題事象に直接出会い向き合う場面を設定したり、探究課題に関する専門の方と連携したりすることで、疑問や驚きなどから問題を見いだすなど、これまでの児童の考えとのずれや隔たり、対象への憧れや可能性を感じさせるようにする。

○何を、どのように考えさせたいのかを明確にして思考ツールを活用することで、分析しやすい、可視化され共有しやすいなど実感できるようにする。

○様々な課題に対する解決方法や学習計画を児童が考え実行し、失敗や再挑戦を繰り返すことで、課題解決のために、よりよい改善策を粘り強く考える力や自己調整力を育てる。

○学習のゴールや目的を明確にし、地域の人と交流したり友達と一緒に学習したりすることで、相手意識や学習活動のパートナーとしての仲間意識を生み出し、個人の学習の質を高め、同時に集団の学習の質も高める。

2 単元の評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
資質・能力 (本校)	知識及び技能	課題発見・解決力	コミュニケーション能力※	粘り強く学習に取り組む態度	自己調整力
本単元	①備後国府は、備後地域の政治・文化・経済の中心地であったことを理解するとともに、国府の伝承に尽力する人々の思いや願いに気付いている。 ②調査活動を、目的や対象に応じて適切に実施している。 ③地域の歴史・文化に関する理解は、備後国府とそれを伝承する人々等について探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。	①地域文化への関わりを通して感じた関心をもとに課題をつくり、解決の見通しをもっている。 ②課題の解決に必要な情報を、手段を選択して多様に収集し、種類に合わせて蓄積している。 ③課題解決に向けて、観点に合わせて情報を整理し考えている。 ④相手や目的、場面に応じて、分かりやすく表現している。	⑤情報の内容が分かっている。 ①自分と違う意見や考えのよさを生かしながら協働して学び合おうとする。	②課題解決に向け、探究活動に進んで取り組もうとする。 ③地域との関わりの中で自分にできることを見付けようとする。	④課題解決に向けた自分の取組を振り返り、学習を進めようとする。

※ コミュニケーション能力は、「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」の両方にかかるため、「思考・判断・表現」は⑤、「主体的に学習に取り組む態度」は①としている。

3 本単元に関わる問い

本質的な問い	単元を貫く問い	個別の問い
私たちは、地域の歴史や文化と、どのように関わっていけばよいのだろうか。	備後国府の歴史や文化を多くの人に知ってもらうために私たちにできることは、どのようなことがあるだろう。	・備後国府とはどのようなものなのだろうか。 ・府中には、どのような歴史や文化があるのだろうか。 ・地域の方々は、どのように文化財を保存しているのだろうか。 ・歴史・文化の保存活動をされている方々は、どのような思いをもっているのだろうか。

4 単元と評価の計画（全 60 時間）

次（時数）	ねらい・学習活動	評価			
		知	思	態	評価方法
1 私たちが府中市のためにできることは？（5）	課題の設定 ・昨年度までの学習を想起し、府中市について知っていることをイメージマップに書き出し、共有する。 ・課題探しの探検後、おおまかな学習計画を立てる。 ・備後国府について、思考ツールを用いて知識の実態を明らかにし、疑問を出しながら課題を設定する。		①	③	・行動観察 ・ノート

6 本時の目標及び学習展開

(1) 本時の目標

自分たちが考えたプロジェクトは実現可能かどうかについて話し合うことを通して、よりよい解決方法を考えることができる。

(2) 本時の学習展開

主な学習活動	○指導上の留意点 ★評価規準、※評価方法
1 前時までの学習を振り返る。 - プロジェクトの目的をまとめたよ。 「何のために、誰に、何を」伝えるかについて考えた。 2 文化財室の方へ自分たちの目的を提案（オンライン）し、文化財室の目的を知る。 6年生の目的 【何のために】 備後国府史跡について知ってもらうために 備後国府史跡を守るために 【誰に】 府中市の方に、備後国の地域の方に 【何を】 府中市の宝、魅力の1つである備後国府史跡を伝える 文化財室の目的（案） 【史跡の保存・活用の理念（保存活用計画）】 大切な「歴史遺産」、「まちの記憶」、「府中」の原点として、備後国府跡の保存と活用を 行政・市民・企業・地域の協働で支えあい、府中の未来につなげる ～支えあい みんなで創る 府中愛～ 【計画地全体（備後国府推定エリア及びその周辺）の整備の基本理念】 「府中市」の原点としての備後国府跡の価値を、知ること、体感することができ、地域に活かされる整備を目指す ～府中のルーツを知って、感じて、楽しもう～ 3 本時の学習課題を設定する。 - 同じところと違うところがあるね。 - 目的が違うから一緒にできないのかな。	○主体的に学習に取り組むことができるようこれまでの学習状況を児童に把握させる。 ○文化財室の方からは目的のみをお話していただくことで、課題を焦点化する。 ○文化財室の目的を聞くときは、共通点、相違点だけでなく、分からない言葉がないかという視点をもたせる。 ○文化財室の目的と自分たちの目的との違いに着目させることを通して、プロジェクト遂行が難しいと感じさせ、危機感をもたせる。
私たちは、文化財室の方と一緒にプロジェクトができるのだろうか。 4 自分の考えをもち、話し合う。 - 難しくて、分からない言葉がたくさんある。 - 守ると保存は同じような意味だね。 - 行政って社会の学習で習ったよ。何のことだったかな。調べてみよう。 - 企業という言葉があるから、私たちとは一緒にできないのかな。 - 備後国府史跡を大切にしている想いは同じだと思う。 - 言葉を言い換えると似たような意味じゃないかな。 - 目的はすべて同じではないけれど、内容は似ているから、文化財室の方と一緒にできると思う。 5 本時の学習を振り返り、今後の学習の見通しをもつ。	○話し合いのプロセスを確認する。 - 何のために（目的） - 何を（情報） - どのように話し合い（処理過程） - どんなゴールを目指すのか（成果） ○それぞれの目的の共通点と相違点の両方を明らかにさせる。 ○自分の考えを書き終えたら写真を撮り、ロイロノートで提出させる。 ○グループで話し合うときは、考えた根拠も説明させる。 ★文化財室の目的と自分たちの目的を比較し、分析しながら、プロジェクトが実行できるかについて自分の考えを出している。（思考・判断・表現） ※行動観察・ノート ○グループで協働して活動することのよさを実感するために、友達のよかったところも振り返りの視点に入れる。 ○今後の学習の見通しをもつために、本時の振り返りと共に、次時の計画をたてる。